

No. 83

2011年 (平成23年)
3月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
鈴木悟峰



目にみえぬ慈悲が
言葉にあらわれて
ナムアマミダブツと
声でしられる

妙好人 浅原才市翁



第16回 真宗法座

阿彌陀經に聞く

「また舍利弗、極楽国土には、衆生生ずるものはみなこれ阿鞞跋致なり。そのなかに多く一生補処(の菩薩)あり。その数はなほだ多し。これ算数のよくこれを知るところにあらず。ただ無量無辺阿僧祇劫をもつて説くべし」

阿鞞跋致とは、不退転という意味です。動かされな
いということ。人に言われたからふらついたり、
世の中に振り回されないということです。不退につい
ては、この世で信心をいただいた者は必ずお浄土参り
にいけると決まったことは絶対に変わりません。この
ことを不退といいます。

他に、お浄土参りしたときは、アミダさまと同じの
仏さまになります。そして、菩薩となって戻ってきます。
これを不退の菩薩といいます。この『阿彌陀經』の不
退はこのことをいいます。

『舍利弗、衆生聞かんもの、まさに發願してかの国に
生ぜん願ふべし。ゆゑはいかん。かくのごときの諸
上善人とともに一処に会することを得ればなり』

諸上善人俱会一処は素晴らしい人々と一緒にいると
いう意味です。

また、お墓に彫られている場合もあります。命終え
た後行くところは、お浄土です。そのお浄土を具現化
したのがお墓です。命終えてお浄土参りしているも
のの骨を納めていますという意味です。仏さまと
もにあるという意味です。

この俱会一処というほかに、手を合わせる対象であ
るから、南無阿彌陀仏と刻まれています。

「舍利弗、少善根福德の因縁をもつてかの国に生ずる
ことを得べからず」

少善根では、仏さまにはなれないということです。
お浄土参りができるのは、阿彌陀さまのはかりしれな
い功德によってこそできるのです。

(永原)

「法要に
想いをよせて」

本年四月から平成二十四年一月にかけて五十六日間、宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が本願寺においてお勤まりになります。

想い起こせば五十年前、宗祖聖人の七〇〇回大遠忌法要にお参りしました。当時は若かりし時で、奈良県の吉野のお寺から学校に通い、お寺の勉強にも勤しんでいる時代でありました。当時、まだお寺の事はあまりよく分かっていませんでした。

詳細な事はあまり覚えていませんが、ご門徒さん宅へのお建夜参りに時に参拝の案内を配布し、本山へのお参りを勧めた記憶があります。心に残っているのは、ご本山にお参りするんだというご門徒さん方の熱気を強く感じたことです。

当時の団体参拝という形は、今日も同じです。たしか組内で約三〇台のバスに分乗しての参拝でした。今回の宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に、日高組は四月十日と四月十六日にご本山に参拝します。

宗祖親鸞聖人ご往生より七五〇年、この間、その時代時代に宗祖聖人がお示しく下さいましたお念仏の教えを、今日までご相続されてきた事は誠に有難い事であります。しかし、今、時代は「何とか離れ」とよく耳にしますが、お念仏相続ということも「何とか離れ」になっているかもしれません。私は、いま二人

生活をしてはいますが、夏休みになると長女の子ども達と一緒に生活をします。平素、子ども達は手を合わす機会もないような生活を送っているのでは、と思われます。

念仏相続の一助になればとの思いもあり、夕方には一緒にお勤めをします。お経を耳にし、やがては仏の子が育ってくればと願うばかりです。

(片桐)

親鸞聖人
750回大遠忌



スローガン

あんのん
世のなか安穏なれ

法 悦 々 イ ズ

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想、御意見等を明記の上、

〒649-1221

日高郡日高町志賀3851

善宗寺内 組長事務所

までお送りください。

※抽選で10名の方に粗品を差し上げます。

※締め切り日

平成23年5月31日必着

※発表は次号

平成23年4月から平成24年1月まで、宗祖親鸞聖人の750回大遠忌法要がご本山(西本願寺)で修行されます。この大遠忌のスローガンを、次の1~4の中から1つ選んで、その番号を書いて下さい。

1 世のなか 安泰なれ 2 世のなか 安穏なれ

3 世のなか 平安なれ 4 世のなか 平成なれ

82号の正解は、2の「鎌倉」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 畑中 宏之 様
由良町 小林 照代 様
由良町 小谷かおり 様

由良町 岩崎 敏子 様
御坊市 塩田 廣一 様

仏式での 起工式

起工式、と書いてどの
ような状況を思い浮かべ
るでしょうか。
家を新築するにあたつ
て、神職(神主)をお招
きし、建設場所でお払い
(祈願)をする「神式」
の儀式を思うことではし
ょうか。
起工式は建築工事の無
事完成を願う儀式です。
思うに、自分の努力や

考えでかなわないことを他
に願う。この考えは誰にも
有ります。
そうした考えで、一般的
にはお祝いの事は「神
式」神様に、死に
関する事(葬儀)
は仏事「仏式」で
と考えるお方が多
いようです。
起工式(上棟式)
を「仏式」でも行
うことをご存じで
しょうか。
浄土真宗でも起
工式を行います。
親鸞聖人「和讃」
に
「南無阿弥陀仏を

たまたまに、浄土真宗の要旨であ
るとともに、新たに縁のでき
た方に、み教えを理解してい
ただくための手引きでもあります。
私たちは、近く宗祖親鸞聖人の



して歩みたいと思えます。
この「教章」を身近に備え、
折りにふれて参照し、浄土
真宗に親しんでくださるよう
期待いたします。
と新しい「教章」について
お示しくださいました。
新「教章」は「ひかり(平成
二十年七月一日号)」にも掲載
されましたが、本願寺出版社
のホームページからダウン
ロードできます。「教章」は
日常ご利用の聖典の初めの方
に載っています。その補
訂用として聖典に合わせて各
種サイズの「教章」が用意
されています。
ホームページは
<http://www.hongwanji-shuppan.com/>
(松本)

となれば
堅牢地祇(大地の神)は
尊敬す
かげとかたちとの
ごとくにて
よるひるつねに
まわるなり」と
言われます。
「念仏者は無碍
(障り、さまたげ
ない)の一道なり」
とお聞かせいただ
く私たち、真宗門
徒として「仏式」
での起工式はどう
でしょうか。ご住
職様に一度ご相談
してみましよう。
(鈴木)

「真宗法座」

日高組第十六回「真宗法
座」が十二月十九日(日)
日高町比井 長覚寺におい
て各寺院の門信徒さん、約
八十名が参加し開催されま
した。
この度は、法座に先がけ
て、門徒推進員養成研修で
ある日高組第八期の連続研
修受講者十四名の修了式が
行われました。
受講者のみなさんご苦労
さまでした。修了者のみな
さんには今後、この研修を
ご縁とされ、各寺院での諸
行事への積極的な参加を、



連研修了証授与式

また、ご本山で開催され
ます門徒推進員養成研修に
参加していただけますよう
念願致します。
続いで法座は、ご講師
に本願寺派布教使、奈良教
区勝光寺の花岡静人師を招
き、「法然と親鸞」のテー
マで法座が開催されまし
た。
法座に参加した、あるお
方は、「有難いお話でした
た。私のような者のために
お念仏をお勧め下さった親
鸞聖人さま、... 聖人
さまのご苦労を偲ばせてい
ただきました。」と話され
ていました。
来年も「真宗法座」を開
催する予定です。

門徒心得

浄土真宗の教章
の歩む道
(私の)

七百五十
回大遠忌
をお迎え
いたしま
すが、この
大遠忌を
機縁に、
先人の方
が身をもつ
て伝えてく
ださった

「門徒の規範」となる「浄土
真宗の教章」が平成二十
(二〇〇八)年四月新しく制定
されました。「教章」は昭和
四十二年に当時のご門主
(勝如上人)が定められ、親鸞
聖人の流れをくむものとして
心に銘ずべき肝要を示されま
した。その後四十年あまり、そ
のご教示は門徒の信仰生活の
規範となってきました。
新「教章」では、「聖典」に
おいて、「浄土三部経」のほか
に「正信偈」と「三帖和讃」、
さらに「御文章」が加えられま
した。また、教えの内容におい
て「教義」「生活」の他に
「宗門」が加えられました。
ご門主は、
この「教章」は、わが宗門
に集う方々に、ぜひ心得てい

親鸞聖人のおこころを深く受
けとめ、浄土真宗のみ教えを
混迷の時代を導く灯火として
高く揚げ、人々に広く伝えな
がら、ともに世の安穩をめざ



日高組寺院めぐり

信行寺（由良町衣奈）
第十六代住職 松本秀法

沿革

「衣奈村郷土誌」によると、天正二年（一五七四）八月、僧寿慶が開基したと記されている。この寿慶は、俗名を寺井新左衛門と称し、駿河の国（静岡県）の浪人であったが、衣奈浦の地へ落ち延びてきて、真宗の教義を広め、一字を建立するとともに、得度して僧と

なり、名を寿慶と改めた。

元禄九年（一六九〇）

八月、本願寺第十四世寂如上人から木仏本尊阿弥陀如来を下賜され、正徳元年（一七一〇）七月、信行寺の寺号公称を許された。

本堂は宝暦八年（一七五八）十二月、火災により焼失したが、文化八年（一八一〇）三月に再建、さらに昭和五十七年（一九八二）十一月に再建した。



当寺は、第九世龍鉄の時代の享保十一年（一七二六）四月、故あって東本願寺へ転派したが、三十二年後の宝暦八年に帰参している。この転派は、兄弟であった阿戸・教専寺聞哲と行動を共にしたものであるが、帰参は教専寺より九年遅い。



日高組通信

☆行事報告

・日高組「真宗法座」
日高組第十六回「真宗法座」が昨年十二月十九日、日高町比井長覚寺において約八十名の門信徒が参加し開催されました。法座に先がけて、連続研修受講者十四名の修了式が行われました。続いての法座は、ご講師に本願寺布教使、奈良教区勝光寺の花岡静人師を招き、「法然と親鸞」のテーマで法座が開催されました。会場の準備、お世話を頂いた長覚寺の総代様、仏教婦人会員の方々に御礼申し上げます。
・総代会「後期研修会」
平成二十二年度後期の研修会が、一月二十九日（土）、由良町網代念興寺において、各寺院の総代四十四名が参加し開催されました。この度は、鷺森別院輪番で、和歌山教区教務所長の杉本正信師を招き「行動ある門徒総代をめざして」と題しての研修でありました。



☆行事予定
○日高組 二十二年「基幹推進委員会」
三月十二日（土）、日高組事務所、善宗寺に於いて開催致します。
二十二年度の事業報告及び二十三年度の事業計画に

☆訂正
八十二号「日高組通信」下段の中で誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
【誤】☆行事報告
【正】☆行事予定

死生観
輪廻転生とよく言われていますが、実際にそうなのかどうか疑問を感じることがあります。大谷 輪廻転生はインド文化圏の人々が一般的に信じている。事柄で、日本人にはなじめないところがあります。インドの宗教は輪廻転生からの解放が重要な目標ですが、日本人にとってはさほど重要な問題ではないと思います。ただ、人生は単純にこの世だけで完結しているのではなく生まれ前の遠い昔から死後まで、三世にわたって持続するものであると考えることは、今のいのちに深さを与えるでしょう。
『阿弥陀経』に「俱会一処」（ともにひとところであう）とあり、日高組内は、少子高齢化の進む地域であります。そんな状況下で、寺院の活性化を図ることは大変なことかも知れませんが、現状を見守り取り組みが大切ではなからうか。
講話に引き続き、本年四月から本願寺におきまして親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が修行されますが、その法要に向けて寺院の代表者として法要の勝縁に向けての気運の向上を図るビデオ放映がありました。
大谷光真ご門主ご著作
「世のなか安穩なれ」より

阿弥陀如来に救われて浄土に生まれたいものは、またそこで会えと教えています。どのように解釈し、受け止めるかは各自の問題でもありますが、この世の生身の人間同士の再会と受け取るのは無理でしょう。煩惱の消え去ったさとりの世界で会うのですから。
つきまして協議致します。各部門の会長様にはご出席をお願い致します。
○日高組「組会」
三月二十六日（土）、に開催致します。詳細については後日、各寺院にご案内させていただきますが、門徒組会議員の方々にはご出席を賜りますので宜しくお願い致します。
○親鸞聖人七五〇回大遠忌法要
「日高組団体参拝」
日高組に於きましては、この法要の参拝日を四月十日（日）と十六日（土）の二班に分け、各二〇〇名（四〇〇名）が参拝することとなりました。既に各寺院から多くの参拝申込みがあり、今のところ総数で三九七名の方が参拝していただきます。
五〇年に一度のご勝縁、共々聖人のご遺徳を偲びつつ、お念仏申すご縁とさせていただきます。